

富山県アイスホッケー連盟 中長期ビジョン（骨子）

I はじめに

（1）中長期ビジョン策定の趣旨

当連盟は、これまで、特に「2000年とやま国体」を契機として選手の強化、ジュニア層等の育成およびアイスホッケー自体の普及など、様々な活動に力を注いできました。その結果、ジュニア選手の成長、インターハイ・国民体育大会での活躍など、一定の成果を挙げてきました。

しかし、近年、アイスホッケー人口の減少、当連盟における人材不足など、新たに取り組むことが必要な課題が生じてきています。

そこで、「2000年とやま国体」から10年以上が経過したこともあり、当連盟の方針、考え方を再確認し、連盟に所属する各人が共通認識を持ち、共通の目標に向かって邁進できるよう、この度、「中長期ビジョン」を作成しました。

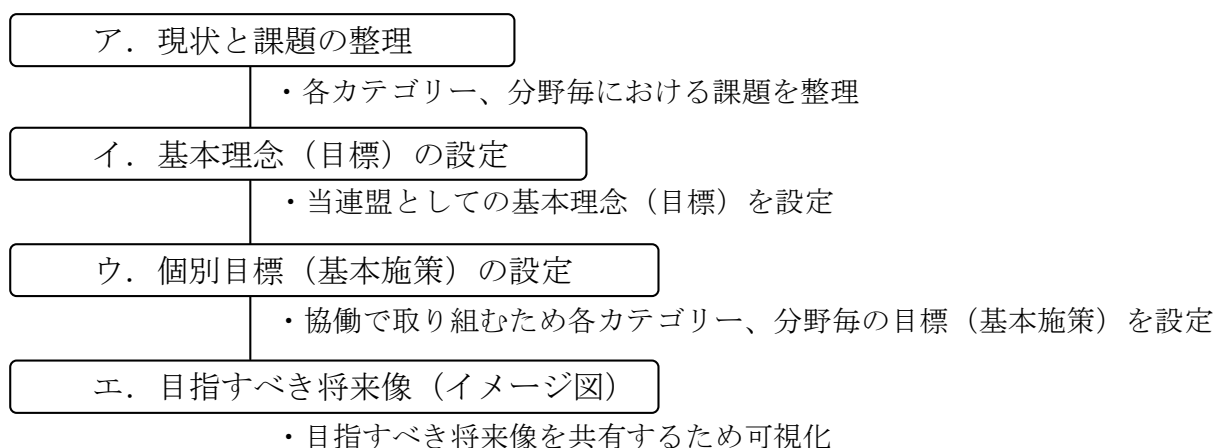
このビジョンは、『楽しむこと！ 常に目標を持って活動すること！ 続けること！』を基本理念とし、概ね10年後を見据えた当連盟の目指すべき将来像を描いています。そして、その実現を図るため各カテゴリー、分野毎に施策を設定し、その目標について一人ひとりが共有し、皆さんとの協働で取り組んでいくためのものです。

このビジョンは、最終的には、それぞれ「人」により実施され、協働によって達成されるものです。したがって、目指すべき将来像の実現に当たっては、各分野を支え、牽引する人材の存在が、極めて重要となります。このため、各分野において当連盟の成長・発展を担う「人」が育ち、「活躍する」ことが最も大切であるとの観点から、「人づくり」を重要施策として位置づけています。

（2）計画の構成

この計画は、次のとおり構成されています。

現状と課題の整理、基本理念（目標）の設定については以下に内容を記載していますが、個別目標（基本施策）については、今後、連盟全体として、皆さんとの協働のもと、取り組んでいきたいと考えています。



II 現状と課題

以下のとおり、各カテゴリー、分野毎の主な課題等を整理しました。

1 連盟組織について

(1) 組織全般における課題

- 連盟活動への参加者が基本的に少なく、限られた人材の中で連盟の強化、普及、事業等といった活動を行っています。
- 選手兼任で指導スタッフとして参加、事業運営に携わるなど、掛け持ちしている人がたくさんいます。
- 新たな事業を実施するにも、人材が乏しいため、現在、携わっている人に更なる負担を強いることになっています。

2 普及、レクリエーションについて

(1) 小学生、中学生の課題

- 近年の少子化、競技スポーツ離れもあり、選手が減少してきています。アイスホッケー教室等を通じジュニア層の拡大、チームへの勧誘を図っていますが、なかなか効果が出ていません。
- 練習時間帯が遅いことや施設使用料など個人負担額が大きく、保護者の理解が得にくい状態にあります。
- 小学生チームから中学生チームへ競技を続ける選手が減少しており、技術面も含めて“繋がり”が不足しています。人数が少ないことから複数のチームを構成できず、自分のレベルに合ったチームを選択できないなど、競技を続ける環境が出来ていません。

(2) 社会人、大学生、女子の課題

- 年々、競技人口が減少してきています。チーム数も減少しており、特に、レクリエーション、楽しみながら競技を続ける環境が出来ていません。
- 国体選手と一般社会人とを見比べると、どうしても個々のレベル差が大きく、目的の違いもあり、県内リーグ等において互いに競技を楽しむことが出来ていない状態にあります。
- 大学生、女子チームなど、目標（大会や競技力向上など）がはっきり定まっておらず、チームとしてのまとまりが不足しています。

3 環境・事業・広報について

(1) 指導者の課題

- 指導について限られた人材の中で行っています。チーム自体も指導者に頼りきっている体質となっており、指導者がいなくなるとチーム運営が成り立たなくなるような状況です。
- 競技人口不足によりチーム数を増やすことも困難な状態であり、また、指導者の新陳代謝も必要ではありますが、なかなか行えない状態にあります。（ある意味、マンネリ化している。）
- 指導者のスキルアップ（選手へのメンタルサポート面、栄養・休養面といった多様な面を含む。）が求められています。

(2) 事業、オフィシャル、広報の課題

- 試合環境を支える人材が不足しており、恒常的に大会運営（オフィシャルを含む。）が出来る体制（県内リーグ等）となっていません。
- 予算が限られていることもあり、主体的にアイスホッケーをPRできていない状況となっています。
- アイスホッケーの認知度拡大や普及PRのためマスコミを活用していくことが必要ですが、話題・トピックスを一元的に集約し、マスコミに提供できるような体制を構築する必要があります。

(3) レフェリー（ラインズマン含め）の課題

- 人材が不足しており、大会運営（県内リーグ等）に必要な人数を確保するのが難しい状況にあります。
- 重要な試合ほどレフェリーの資質・力量が問われるため、ブロック大会を開催する場合でも、他県のレフェリーと共に対応できるようにレフェリーを養成していくことが求められています。

4 強化について

(1) 成年強化の課題

- これまで県外から多くの優秀な選手を招へいするとともに、富山のジュニアで育った選手が関東や関西の大学へ進学し、卒業後は富山に戻ってくるなど、若い力が継続的に流入し、その活躍が期待されており、国体本選への連続出場、中部日本大会の優勝など、戦力は維持あるいは徐々に向上しています。
- 目標が国体のみに特化しており、その他の対外試合等に目標を見出せていない状態にあります。県内リーグと対外試合等との日程が近接するなど試合日程が選手にとって厳しい側面もあり、選手のモチベーションが維持されにくい状態にあります。
- 県外からの選手やUターン選手へのフォロー（就職・生活面）が十分に成されていない状態にあります。県外から招へいした選手に、指導面も含めて大きな負担を強いています。

(2) 少年強化の課題

- 国体本選に連続出場し、龍谷富山高校もインターハイに出場するなど、レベルが確実に上がってきています。また、卒業した選手が関東や関西1部リーグの大学へ進学しており、継続的な成年選手の輩出にも貢献しています。
- 地理的な影響から、近隣に練習試合の相手が少なく、強化のための遠征費など、選手やその保護者の経済的な負担が大きくなっています。
- 遠征時の移動方法や、県外からの選手への対応など、少年スタッフにかなりの負担を強いています。

Ⅲ 基本理念、目標の設定

以上の課題を一人ひとりが共有し、皆さんとの協働により取り組んでいくため、当連盟の基本理念（目標）、及び個別目標（基本施策）を、次のとおり設定します。

（１）基本理念（目標）

【基本理念】

『楽しむこと！ 常に目標を持って活動すること！ 続けること！』
～アイスホッケーを通じ、ライフスタイルを豊かなものに～

【目標】

「それぞれの世代において、レベルに合わせチームを選択し、常に目標をもって活動することが出来る体制をつくる。」

（２）個別目標（基本施策）

◎競技人口を増やします。

- ・アイスホッケー人口を倍増！（選手、指導者、連盟役員・スタッフともに）
- ・チーム数を増加（世代、レベル、目標ごとに選択することが可能に）

◎指導スタッフを充実します。

- ・各チームにスキル・技量を兼ね備えた指導者がいる。〔定期的に指導者に対するスクールを開講するなど（指導技術、指導マインドの更新）〕

◎レフリー、大会運営の体制を構築します。

- ・地域リーグ、ブロック大会等を、主体的（他県からの補助要員を含む。）に開催できるようレフリー、ラインズマン、大会運営スタッフ体制を構築する。

◎拠点整備を推進します。

- ・拠点となる施設整備〔試合規格に合った練習場の確保、連盟や各チームの活動拠点の整備（自治体の援助、サポート等による安価な使用料金の提供。情報の共有化・論議の場の提供など）〕

◎広報活動を強化します。

- ・マスコミとの良好な関係の構築（即、記事化してくれるような連携）
- ・ホームページ等を通じての最新情報の発信

◎財政面の充実を図ります。

- ・県などからの確実な補助金、強化支援金の確保
- ・アイスホッケーを支えてくれる企業からの支援
- ・広告媒体を使用する企業からの広告料

◎交流（国内、海外）活動を展開します。

- ・国内のレベルの高いチームと大会遠征、合宿等を通じた交流
- ・定期的に、カナダ等、アイスホッケー先進地への海外遠征を企画
- ・交流により選手、スタッフの人格形成面も含め、すばらしい人材を養成

IV 目指すべき将来像

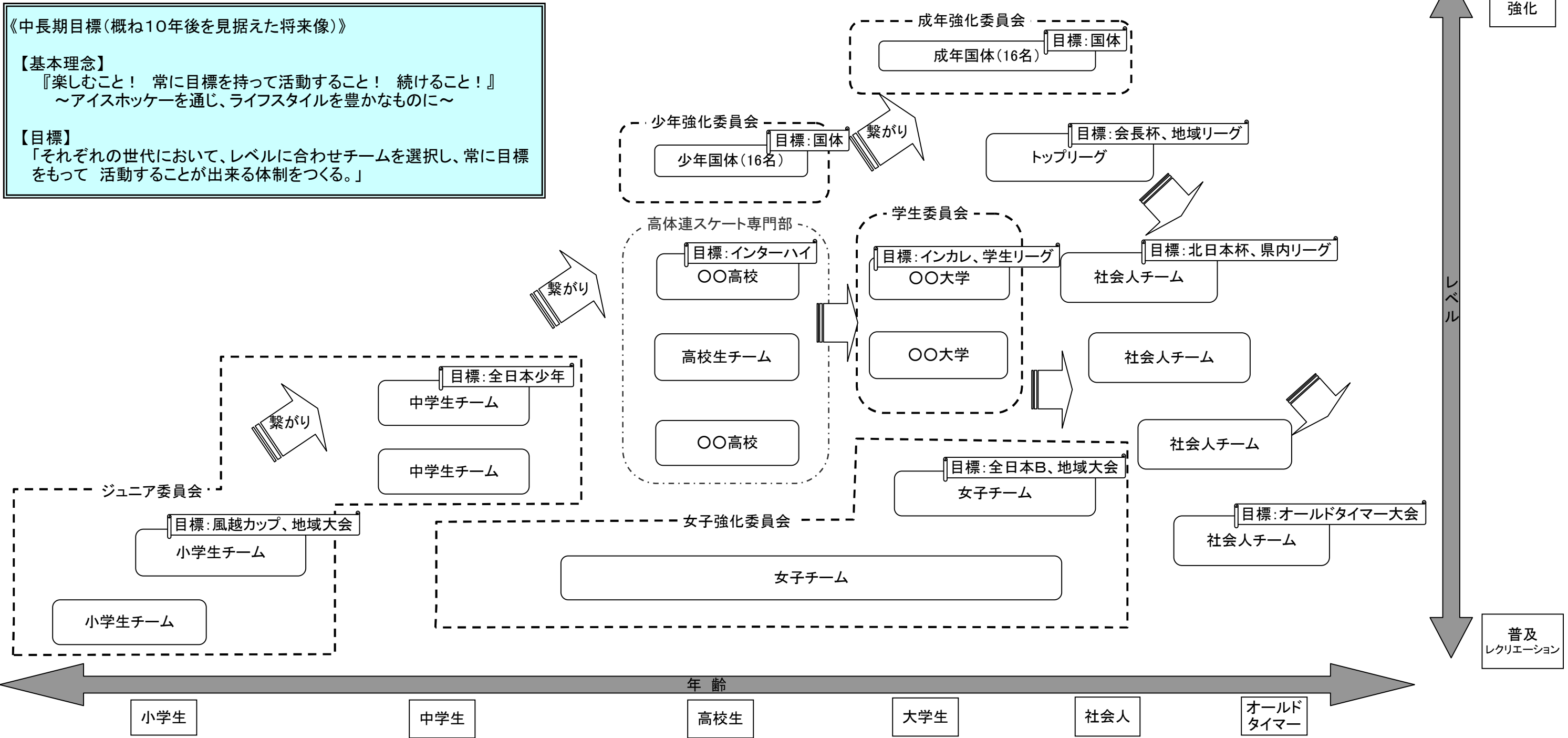
富山県アイスホッケー連盟 中長期ビジョン イメージ図

※キーワード:「繋がり」

《中長期目標(概ね10年後を見据えた将来像)》

【基本理念】
『楽しむこと! 常に目標を持って活動すること! 続けること!』
～アイスホッケーを通じ、ライフスタイルを豊かなものに～

【目標】
「それぞれの世代において、レベルに合わせチームを選択し、常に目標をもって活動することが出来る体制をつくる。」



- 連盟全体(総務委員会・レフェリー委員会・事業推進委員会・普及委員会 等) -----
- ◎競技人口の増加
 - ・アイスホッケー人口を倍増!(選手、指導者、連盟役員・スタッフともに)
 - ・チーム数を増加(世代、レベル、目標ごとに選択することが可能に)
 - ◎指導スタッフの充実
 - ・各チームにスキル・技量を兼ね備えた指導者がいる。[定期的に指導者に対するスクールを開講するなど(指導技術、指導マインドの更新)]
 - ◎レフリー、大会運営体制の構築
 - ・地域リーグ、ブロック大会等を、主体的(他県からの補助要員を含む。)に開催できるようレフリー、ラインズマン、大会運営スタッフ体制を構築する。
 - ◎拠点整備の推進
 - ・拠点となる施設整備(試合規格に合った練習場の確保、連盟や各チームの活動拠点の整備(自治体の援助、サポート等による安価な使用料金の提供。情報の共有化・論議の場の提供など))
 - ◎広報活動の強化
 - ・マスコミとの良好な関係の構築(即、記事化してくれるような連携)
 - ・ホームページ等を通じての最新情報の発信
 - ◎財政面の充実
 - ・県などからの確実な補助金、強化支援金の確保
 - ・アイスホッケーを支えてくれる企業からの支援
 - ・広告媒体を使用している企業からの広告料
 - ◎交流活動の展開
 - ・国内のレベルの高いチームと大会遠征、合宿等を通じた交流
 - ・定期的に、カナダ等、アイスホッケー先進地への海外遠征を企画
 - ・交流により選手、スタッフの人格形成面も含め、すばらしい人材を養成